

World Economic Forum Annual Meeting 2008  
Davos, Switzerland, 23-27 January  
The Power of Collaborative Innovation

- 1 . (概要) 本年 WEF 年次会合 (ダボス会議) は 1 月 23-27 日の日程で開催され、「協調的イノベーションの力 (The power of Collaborative Innovation)」を共通テーマに、気候変動、金融問題、貧困撲滅、安全保障など国境を越えた難題に対して、各国が協調精神を発揮し、科学的、社会的イノベーションを推進して対応するとの観点から討議し、成功裏に閉幕した。

世界各地から首脳、閣僚、1,000 社をこえる企業人、学者、市民活動家、芸術家らが参加し、福田総理大臣の特別講演が行われたほか、日本政府からは若林農水大臣、甘利経産大臣、鴨下環境大臣、渡辺金融大臣が、また自民党からは中川元幹事長、塩崎元官房長官、川口順子元外相らが出席してパネリスト等として活躍したほか、東京大学と慶応義塾大学が Japan Night を共催するなど活発な貢献を行った。

- 2 . (要人) WEF のクラウス・シュワブ会長は 23 日開幕セッション (ライス米長官ほか) や 26 日の福田総理大臣特別講演のセッションなど首脳級会合の議事進行を行い、また WEF の共同議長 (Co-Chairs) であるトニー・ブレア前英国首相やヘンリー・キッシンジャー博士等がさまざまなセッションの主要発言者として討論をリードするなど、水準の高い討議が複数会場で同時並行的に進んだ。役員会にて日本からは竹中平蔵教授が執行理事に任命された。(主要プログラムについては別添参照)

- 3 . (構成) サブテーマは以下の 5 項目であり、全てのセッションはそのいずれかに属する。

1 ) Business: Competing While Collaborating (ビジネス: 競争と協調)

2 ) Economics and Finance: Addressing Economic Insecurity  
(経済と財政: 経済不安と向きあう)

3 ) Geopolitics: Aligning Interests across Divides (地政学: 亀裂横断的な連携)

4 ) Science and Technology: Exploring Nature's New Frontiers  
(科学技術: 自然界の新たな地平を探求する)

5 ) Values and Society: Understanding Future Shifts  
(価値と社会: 未来への展開を理解する)

- 4 . (日本の評価) 福田康夫総理の演説が4日目に予定されていたからか、主要なセッションにて外国のパネリストによる日本への好意的な言及が格段と多かったと思われる。開幕セッションでライス長官は、民主党大統領候補らの中国への傾斜を意識してか、日本の民主主義を称え、また「常に味方同士」の仲間を列挙する際に、NATO 諸国の前に日本を挙げたことが注目された。ブレア前英首相や各国の CEO らが日本の環境対策や成長政策をロール・モデルと発言する場面もあった。
- 5 . (自民党の役割) 自民党は中川秀直元幹事長が23日夜にダボス入りし、一歩先に入った塩崎恭久前官房長官、川口順子元外相らと共に、26日午前の総理特別講演に向けて関係者の機運を盛り上げるよう積極的な活動を行った。24日夜にはJapan Nightが東京大学総長と慶応義塾大学塾長の共催で開催され、民主党代表の参加がなかった一方で、中川秀直元幹事長の参加により、邦人研究者や企業からの参加者らの結束が多いに盛り上がり、また外国人の参加者数も邦人を超える勢いがあった。
- 6 . (総理の演説) 福田総理は最終日前日26日(土)11時半から特別講演をメインの कांग्रेस・ホールにて行い、北海道洞爺湖サミット TICAD IV に向けた議長としての考えと使命感を表明し、日本のイニシアティブも発表した。さらにこれら2つの会議の結果を秋の国連総会にて報告し世界と共有したいと前向きな姿勢を明確に打ち出した。講演のなかで、総理はまず、最近の金融市場の混乱や株安等を踏まえ、世界経済と日本経済の課題を述べ、G8 サミットに向け、気候変動問題やアフリカ問題等への取組みの道筋を示した。特に気候変動問題については「クールアース」推進構想を発表し、初めて国別総量目標を設定することに言及した。また100億ドルの途上国支援(クールアースパートナーシップ)を発表した。これは、24日朝、話題を呼んだロック歌手ボノとゴア元米副大統領の対談で熱弁された adaptation fund、すなわち途上国が低炭素成長方式に転換するための調整支援の考え方にあたかも呼応するような、具体的な率先垂範事例となり、参加者の感動を呼んだ。(総理演説の和文・英文は別添参照)
- 7 . (総理の評判) 福田康夫総理大臣の演説はシュワブ会長の司会で行われ、後半の討論にはブレア前英国首相が加わり、3者で行われた。総理演説に

については、実質的内容が誠実かつ豊富に織り込まれた良心的で良質の演説であるという評判が、先進国・途上国のいずれからも数多く聞かれた。また後半の討論では総理は自らの言葉で話し、その優しい人柄と政策通の能力が聴衆に伝わった旨の意見が多かった。

8. (総理の効果) 今年のダボス会議の特徴は、格段と活気に満ち、また例年になく最後まで残る参加者が多いとの声が多かった。福田総理の演説は最終日前日であったが、会場はもとより、終わってからも講演会場周辺のホールやたまり場などがごった返すほど盛況であった。大半の首脳や大臣が前半で帰ってしまうなか、会議後半期への期待を日本総理がつなぐ効果をもたらしたと思われる。総理演説の力強さから、福田総理の主催する G8 サミットこそが、ダボス参加者の気候変動の懸念への答えを出してくれるという構図が、聴衆の気持ちの中で結晶化していった感がある。

9. (対米与党外交) 自民党中川秀直元幹事長は、日本から参加した企業人を束ねるほか、前米国通商代表ロバート・ポートマン(共和党、52歳)らと精力的に会談をこなした。ポートマン氏は父ブッシュ政権下で副法律顧問として大統領府入りし、オハイオ州2区から7期連続当選したのち、米通商代表や行政管理予算局長として現ブッシュ政権を支え、現在は2010年のオハイオ州知事選を目指して活動中。次世代の代表的な共和党政治家の1人と目される。とりわけ、オハイオ州は、2000年大統領選にてはゴア民主党候補との接戦を制し、2004年にはケリー民主党候補とのさらなる微差の接戦を制して現ブッシュ政権の誕生と継続を可能にしたいわゆる swing state (帰趨決定力のある州)であり、同氏はいずれにてもブッシュ陣営の選挙対策本部長を務めた。その選挙対策手法は冷静、科学的、実践的であり、共和党の選挙の強さを編み出した一人と言われる。

同氏は貿易政策をめぐることは、伝統的に保護主義色の強い民主党との乖離を橋渡しした与野党協調の人として知られ、また成長主義路線を掲げている。会談においても、上げ潮戦略に深い関心を示し、オハイオ州知事当選を果たしたら、同州と日本企業との連携を特別に重視すると約した。さらに会談にて、中川秀直元幹事長の年内訪米を要請した。(了)